

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマイルケア（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年3月2日		～	令和8年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和8年3月16日		～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障害児や医療ケア児の受け入れができる。	看護師や保健師、理学療法士、介護福祉士などの専門の職員が勤務している。また、1対1の支援を常に行っている。	こどもの成長に合わせた医療的ケアの実施や医療機器の準備、環境面を充実させていきたい。
2	姿勢と運動・動作の基本的技能の維持・向上に取り組んでいる。	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善や関節の運動、筋力の維持などにも取り組んでいる。	様々な補助用具等を用意したり、支援の方法や安全な移乗のしかたを習得したり、環境整備と職員のスキルアップに努める。
3	家族が安心して子育てを行うことができるよう信頼関係を構築し、丁寧な「家族支援」を行っている。	子育ての困りごとや不安、医療的なケアについて、面談をはじめ電話やSNSも活用して相談にのったり、家族に寄り添いながら必要な助言と援助を行っている。	随時面談ができる環境を整え、いつでも遠慮なく相談できる体制をつくる。また、全職員が相談のスキルを身に付けるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センターや医療機関との連携に改善の余地を感じている。	医療機関を併設していないため、情報共有が遅くなることもある。	定期的な支援会議や日々の支援の役割について共有し、資質の向上に努めていく。
2	保護者との交流や保護者会の参加が低迷している。	コロナ禍以降、保護者との交流や行事への参加が減っている。保護者会に出席する方がいつも同じメンバーになっている。	参加者が増えるよう協力を呼び掛けたり、参加してみたいくなるような企画について役員と相談していく。以前実施していた「かがやき集会」を踏まえ、交流の機会を検討する。
3	こどもの成長や利用児の増員による送迎車の確保が必要である。	リフト車に乗れる人数に限られている。また、リフト車を増やすのであれば、送迎時の職員の確保が必要となる。	リフト車や職員を増やす。又は、利用日を調整して1日当たりの利用者数を調整する。